

新任薬剤師研修会を受講して

水戸医療センター 薬剤部 小島 卓也

出身大学：高崎健康福祉大学（平成29年）

興味のある分野：糖尿病

平成29年7月1日(土)、東京の国立病院機構東京医療センターにおいて、関信地区国立病院薬剤師会の主催による第21回新任薬剤師研修会が催されました。今回私は、新任薬剤師として、また新社会人として参加させていただきました。研修会は教育研修部長の川崎繁克先生の開会の挨拶より始まり、川崎先生に「医療安全とは」という題目でご講演頂きました。安心安全な医療とは、いったい誰にとって安全であるべきだろうか？という問いかけに川崎先生の回答は、医療において患者の安全は何よりもまず優先されるべきものであるということでした。講義の中でご紹介いただいたものに、厚生労働省の医療安全政策の一環として発表された「安全な医療を提供するための10の要点」というものがありました。この解説には「医療に従事する者は患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方」という内容があります。このお話を伺い、薬剤師は実際にこれを日々の業務の中で実行するという責任の重さを改めて実感することが出来ました。またこの解説には人は間違えることを前提として、システムを構築していくことが必要とあり、医療安全を組織全体の問題として捉えていく考え方はとても素晴らしいものであると感じました。この考え方を実現させていくために、私たち一人ひとりが常に意識し取り組んで聞く必要があると思います。

グループ研修では阿部直樹先生に「Team STEPPS」という題目でご講演頂きました。これはアメリカの軍病院が導入した枠組みで、医療安全の推進、向上を目的としているということでした。このTeam STEPPSでは、チームのパフォーマンスを改善し、より安全なケアを提供し、組織の文化を変えていくために、4つのコアになるコンピテンシー（顕在化能力、業績直結能力）が必

須だと提案しています。その4つとは、リーダーシップ、状況モニター、相互支援、コミュニケーションです、これらの4つが相互に関連しあうことで、チームとしてのパフォーマンス向上につながるということでした。

私はこのTeam STEPPSの講義の中で2つのツールを学ぶことが出来ました。1つ目はSBARという状況（situation）背景（background）評価（assessment）提案（recommendation）の頭文字をとった略語です。この方法を使用すると、例えば上司に相談がある場合、今起こっている現状を簡潔に伝えることができます。私は焦ってしまうとどうしても適切な説明ができなくなってしまう時があるため、この手法はとても勉強になりました。

2つ目は2回チャレンジルールというツールです。この考え方は、「最低2回はアサーション（提案）を行いましょう。」というものです。相手が忙しい場合、1回目のアサーションが聞き流されてしまうことがあるため、それを回避する目的があります。実際に業務をこなしていると、口頭で伝えたことが相手には伝わっていない場合、またはその逆の場合もありました。このツールはそのような場合にも応用が可能であると考えます。

今回の講義を通じて、コミュニケーションは言葉で相手に伝えるだけではなく、相手が正しく理解することが出来て、コミュニケーションであるということを改めて感じました。私自身日々の業務の中で、十分なコミュニケーションが取れていない場面は多々あります。その際には今回学んだ、考え方とツールを駆使し、少しでも円滑なコミュニケーションがとれるように努力していきたいと感じました。